



こそ床暖房が売れる!!

中食・高齢化社会で床暖が注目される理由

前回は、市場背景から考えた床暖房導入のメリットを解説しましたが、今回は『安全面』から床暖房の可能性をお伝えします。当社は熊本市内に拠点があります。熊本地震以降、実際床暖房の注目が高まっています。

阪神淡路大震災を上回る震度7の揺れが2度起こった熊本地震。建物の全半壊は約4万棟に及びましたが、時期が4月だったこともあり1件も火災が発生しませんでした。これがもし、1月や3月だったらどうなっていたでしょうか。たとえ地震が来なくても、小さな子供やお年寄り、ペットを部屋に残していても、しかも気密性が高い室内にストーブやファンヒーター等を安易に置くことには極めて危険性が高いです。

そこで、当社では安全性の高い床暖房を薦めています。エアコンなどの空気暖房ではなく、床からの放射暖房を主暖房にすることで、補助暖房としてストーブなどの火気を室内に置く必要がなくなります。

◀熊本地震時の様子



熊本地震以降顕在化したリスク

住宅が当たり前になり、気密性が高いことから、室内にストーブなどを置くと二酸化炭素のリスクが高まり、頻繁に換気をする必要があります。住宅にお住まいになられる家族構成は歳とともに変化します。小さいお子様がいます時期、子供が小学校から帰って一人で親の帰りを待つ時期、ペットを飼いだめたり、自分自身が高齢になり、はたまたお孫さんを預かることになったなど、いつ何があるかわからない。そういった意味で、人生の様々な場面で温水床暖房が安心、安全な暮らしを支えます。

◀小さな子供や高齢者のいる家庭では火気を伴う暖房は危険



温水床暖房専門工事会社
ネットワークFHS本部代表
リボンガス株式会社(熊本)
内海 久俊社長



昭和32年生まれ。同志社大学卒業後、ミサワホームで営業・設計の経験を経た後、有限会社内海燃料店を引き継ぎ、C1にて平成4年リボンガス株式会社に改組。平成6年より環境リフォーム研究所として、リフォーム事業の新しいビジネスモデルを構築。地域密着型の住環境サービス業として4,000件以上の顧客を有している。平成14年に温水床暖房FHS事業部設立、九州から全国へ向けて床暖房事業を展開。平成25年より温水床暖房の販売・施工の全国チェーンとしてFHSネットワークを開始。平成26年に土足空間用温水床暖房ECO-HRを開発。熊本県の経営革新承認、平成27年ECO-HRαを開発、熊本市ものづくり大賞を受賞。